

**「禪とジブリ」 鈴木 敏夫著 淡交社 2018年7月発行**

皆さんには信仰する宗教があるだろうか。私には特にない。宗教にあまり頓着しなくてよい日本に暮らしているからなのか、ただ信仰心というものを持ち合わせていないからなのかは定かではないが、私は最近まで宗教というものにほとんど関心を持たないでいた。もちろん、おそらく大多数の日本人と同じく、正月には神社へ初詣に行き、お盆にはご先祖様に手を合わせ、クリスマスにはお祝いをするのだが、何となくそうするものだと思っているし、実際、それはそれで満足な気持ちになっている。特段、信仰する宗教はないが、子供のころから身近にあった宗教的なイベントがそのまま生活習慣の一部になっている、といったところである。

ところが、世界を見渡すと信仰の違いから戦争が起こるほど、宗教を大切にしている人々がいる。なぜ、命を懸けるほどにまで宗教が大切にされるのかという興味から宗教に関する本を読むようになり、最近、近所の図書館でタイトルが気になり手に取ったのが「禪とジブリ」である。このジブリとは、言わずと知れた日本を代表するアニメーション・スタジオである、あのスタジオジブリである。私は小学6年生の時に映画館で「風の谷のナウシカ」を見て以来のジブリファンであり、映画館だけでは飽き足らず、これまで数々の名作をDVDで繰り返し見てきた。それぞれの作品には普遍的なメッセージが込められており、発表から40年近くたっても色褪せることなく現代に通ずる大切なことを教えてくれる。禪とジブリ、異質なようでいて、何かしっくりくるタイトルである。

本書は、スタジオジブリで宮崎駿監督と共に映画製作に携わってきた鈴木敏夫プロデューサーが、3人の禅僧と対談し、ジブリ作品に登場するシーンやセリフが禅の教えに通じていることについて一緒に考えていくのが主な内容である。数々の名場面はもちろん、何気ない場面までマニアックに語られ、ジブリファンとして非常に面白く読ませていただいた。禅についての知識がなくても楽しめること間違いなしである。おそらく多くの図書館で宗教コーナーに配架されているため人目に付くことが少ないと思われる。私は宗教に興味を持ったことがきっかけで偶然出会えたわけであるが、宗教への興味のあるなしに関わらず、全てのジブリファンにおすすめする一冊である。